

# 地域課題解決プログラム

(平成 27 年度)

## 1. 趣旨

近年、大学の地域社会に対する貢献が強く求められています。岩手大学においても、教育、研究に加え、地域貢献を 3 本目の大きな柱として、積極的に取り組んでいます。

岩手大学は共同研究や技術相談を通して、県内の企業の抱える諸課題の解決に取り組んできました。平成 18 年度より、学生の積極的な地域社会への参画を促すために、地域社会の抱える様々な課題を、学生の研究テーマとして募集してきました。自治体や民間企業の抱える様々な課題を、指導教員の下、斬新な学生の視点から研究することにより、新たな展開が期待されます。

応募頂いた課題は、担当する学生を指導する学内の研究者を募集し、原則としては、学生の卒業論文研究や修士論文研究として進めることを予定しています。応募者に金銭的な負担は一切ありませんので、お気軽にご相談下さい。

研究の成果は、3 月に成果発表会として公表させていただきます。

なお、本プログラムの成果は、学生の研究および学習の枠内にとどまるものであり、実利を求めるものではありません。また、全ての課題に対して対応出来るわけではありません。更に研究の成果により、企業が収益を上げることが目的とする課題や、成果を公表したくない課題などについては、原則として共同研究として大学にお申し込みください。

本制度は、文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」の一環として実施されます。

## 2. 要項

- |                  |   |
|------------------|---|
| (1) 募集研究分野       | 分野を問わず  |
| (2) 募集期間         | 平成 27 年 2 月 27 日まで  |
| (3) 募集対象         | 県内自治体、県内民間企業、NPO 等  |
| (4) 応募方法         | 応募様式別紙(1)に記載の上、下記連絡先に、郵送、FAX、e-mail いずれかの方法で申し込んでください。  |
| (5) スケジュール       | 1) 研究テーマ募集 (1 月 21 日～2 月 27 日)<br>2) 学内実施体制の公募 (3 月 2 日～4 月 10 日)<br>3) 応募者と学生(教員)のマッチング (3 月～4 月上旬)<br>4) 審査 (4 月下旬)<br>5) 研究開始 (5 月 1 日～)   |
| (6) 研究費          | 岩手大学が負担致します。(1 件 20 万円×20 件程度)  |
| (7) 研究期間         | 平成 27 年 5 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日(原則 1 年)<br>※平成 27 年度予算の状況に応じて、内容等が変更される場合があります。  |
| (8) 知的財産の取り扱い    | 大学が経費を全額負担するため、当該研究テーマより知的財産が発生した場合は、原則的に全て岩手大学に帰属するものとなります。ただし詳細については、ご相談させていただきます。  |
| (9) 研究成果の取り扱い    | 研究成果について、研究期間終了後に報告書を提出して頂きます。また、研究成果を公表する報告会を実施致します。   |
| (10) 申し込み/問い合わせ先 | 〒020-8551 岩手県盛岡市上田 4-3-5 地域連携推進センター棟内<br>岩手大学地域連携推進機構 担当 今井潤<br>岩手大学研究推進機構 担当 小川薫<br>Tel. 019-621-6491 FAX 019-621-6493<br>e-mail: ccrd-ad@iwate-u.ac.jp<br>用紙ダウンロード<br><a href="http://www.ccrd.iwate-u.ac.jp/liaison/regionalproblem.doc">http://www.ccrd.iwate-u.ac.jp/liaison/regionalproblem.doc</a> |

## 地域課題解決プログラムテーマ申請書

希望テーマ名			
テーマ要旨			
希望教員	なし                      あり	教員名	
会社名等			
担当者部署			
(フリガナ) 担当者氏名			
連絡先住所	〒		
連絡先電話番号		連絡先 FAX	
e-mail			
大学との連携の 経験の有無	共同研究 有 無、受託研究 有 無、奨学寄付金 有 無、技術相談 有 無		
その他 相談案件、ご質問な どご自由にお書き下 さい。			

## 採択テーマ一覧

### 平成 19 年度実施

- 大学生など若者の新聞への期待
- 学校統合の課題について
- 小学校統合後における地域のあり方
  - －「地域総合型クラブ(仮称)」による地域の活性化を目指して－
- 雫石銀河ステーションにおける利用者の立場に立った質の高いサービス向上の研究
- 生涯学習推進計画策定の課題
- ツキノワグマの誘引につながるリンゴ摘果物・廃棄果実等（不要物）にかかる有効活用法の検討・研究開発
- 「うに染め」製品に関する染色堅牢度試験
- 歴史遺産の 3 次元計測技術開発
- 「甲子柿（地域産品）」の魅力を探る
- 麹菌を用いた微生物変換法による雑穀の高機能化
- 岩手県内の老人クラブ活動の活性化策に関する調査研究

### 平成 20 年度実施

- 炭粉末成形技術の開発と地場産業の育成について
- 柔道に関連付けた特色ある運動プログラムづくり
- 八幡平市の生涯学習振興のための研究
  - －住民の学習課題及び政策課題の把握－
- 二次元（QR）コードを活用した観光等情報発信システムの開発  
【浄土ヶ浜まるごとタイム・ナビゲーション】  
～来て観て聴いて・感じる・HAMAるナビ～”
- バイオマス由来エネルギー変換デバイス用電極作製事業
- 「多重債務問題」のない安心・安全社会づくりのために、今、必要なこと
- 間伐材の活用法及び間伐材を利用した木製品の開発
- 高標高山岳地を流域に持つ道路管理のための土石流発生危険度の検討  
～岩手山・御神坂沢における土石流発生基準の検討～
- ゴミ減量対策及びリサイクル率向上対策について
- 地域材販売拡大事業の確立に向けて

### 平成 21 年度実施

- 岩手町における新たなバス交通システムの構築に関する提言
- ホースセラピーが適応障害に与える効果と活用法
- ごみ減量対策及びリサイクル率向上対策について
- 「久慈」ブランドの構築とデザインアイデンティティの研究開発
- 野外博物館の新しい展示手法・実験的総合芸術公開手法の研究
- 大通地区へ、若者の引き寄せ、回遊してもらうための手法と情報発信
- 債務整理後の生活再建支援のあり方
  - ～行政の果たすべき役割と民間セクターとの協働～
- 遊休農地を利用したレンタル菜園の可能性について
  - ～ 太田地区の地域活性化に向けて ～
- 自立し個性ある「地域」を目指す
  - ～「結い」と「資源」を活用し、社会とつなげていく～
- 久慈地域の南部アカマツ材の戦略的販売について
- 盛岡手づくり村に若者を集客するための方策の研究

## 平成 22 年度実施

- 2008 年岩手・宮城内陸地震による二次災害の危険度評価
- さんさ踊りをメインとした盛岡の観光振興
- “おもてなし”の町を徹底追求！  
デザイン・アイデンティティによる「三陸・宮古」のブランドづくりに関する研究
- くちない「レトロなまち」デザインプロジェクト
- 宮澤賢治の思想を取り入れた猪去りんごのブランド化のためのコンセプト生成と商品化に向けたデザイン学研究
- 矢巾町社会教育計画の策定について
- 事業系のごみの実態調査及びごみ減量化対策について
- 館山整備と長岡探訪ツアーの実践  
～「昔の資源」と「今の資源」を活用し、地域再生を目指す～
- 雫石町花と緑のまちづくり事業における花に関する「ホームページ」や「見どころ マップ」等の製作補助
- 野生動物による農作物の被害対策（熊への対応について）
- 人口減少、高齢化の進展による生活環境の変化シミュレーション  
ー「住民参加型まちづくりを育む契機として」ー
- 広瀬川せせらぎ緑道・諏訪町アーケード街なか回遊プロジェクト
- 「世田米の倉並」を活用した中心市街地活性化方策
- 久慈市主要産業の縫製業の活性化手法の検討
- CG(ミックスド・リアリティ)による史跡志波城跡における 1200 年前の景観復元と、二次元コードによるインタラクティブ・コンテンツの開発

## 平成 23 年度実施

- 農業における革新的塩害対策の研究
- 農業法人における環境・品質マネジメントに関する研究
- 盛岡さんさ踊りのさらなる発展策
- 地域コミュニティに属さない若年層への環境意識の向上啓発
- 山岸のカキツバタ群落の陸地化改善
- 猪去りんごにおける顧客と生産者との信頼関係構築に向けたフェアトレーディングデザインの研究
- 数量限定販売焼酎のラベルデザインについて
- 野生鳥獣との共存について  
～マイクロ波センサを用いた野生鳥獣侵入検出システム～
- 日本わさびの機能性を活用した商品開発のための研究
- 住民主体のまちづくりを育む契機として  
-QOL の向上を目指したまちづくり-
- 既存観光資源を活用した若年層へのアプローチ  
～有効な PR 方法と新たな観光メニューの開発～
- 八幡平市（中山間地域）地域の特性を生かした活性化方策を探る  
～住み続けるために～
- 雫石町における観光サインのデザイン研究と観光ルートの魅力向上研究  
～ますますおもしろい！観光ルート「長山街道」をモデルとして～
- 奥州市前沢区生母内に散在する「巨石」を活かした地域づくり
- シイタケ廃菌床ブロックの堆肥化について

## 平成 24 年度

- 岩手大学新ダイズの生産実証にかかる研究調査
- デジタルアーカイブ ～藤沢町商店街の今昔物語～
- 松川温泉の活性化策に関する調査研究
- 雫石町における観光サインの実用化と新しいロゴマークの開発による魅力向上研究
- 盛岡の老舗「巴染工」(紺屋町)のブランディングと新旧技術の人材育成
- 八幡平産プロポリスの抗糖尿病活性の評価
- 手作業用工具の使いやすさが作業に与える影響の調査
- 若年層をターゲットとした魅力ある旅行プランの作成
- 中山間地域住民がつくる地域計画の作成にかかる研究
- 市民と“ねこ”とが共生する地域社会について
- 郷土料理の発掘等による地産地消の推進及び地域活性化
- 買物利便性向上について
- 盛岡市における生ごみの処理状況の実態調査
- 果樹園における鳥害低減を目的としたマイクロ波センサ
- 根浜海岸とトライアスロンエリアの共存整備
- 記念フォーラム『都南の魅力、どう活かす』の協働実施
- 地域コミュニティにおける中小企業家組織の意義・役割の再構築と、地域企業間の協業体制構築の可能性に関する研究

## 平成 25 年度

- 盛岡市及びその近郊におけるカラスの餌場調査とその対策について
- 自家処理による厨芥類、剪定枝の資源化について
- 震災復興過程における定住・移住推進方策を探る
- 復興応援 ～さば寿司プロジェクト～
- 地域財を活用した地区ビジョンの創造「赤沢まるごと博物館プロジェクト」
- 八幡平市来訪者の観光行動と意識の把握による観光施策の事業評価
- 釜石市における被災地観光の実態把握とグリーンツーリズムとの組み合わせによる新しい観光の可能性の検討
- 高松の池の水環境と水質改善に向けた調査研究
- 河南地区における商店街活動の方向性と商店街集客力向上の研究
- もし大学生が図書館長だったら ～若者がつくる未来の図書館～
- 雫石町街道資源の発掘とアーカイブの作成
- 地域コミュニティにおける人と猫との共生について
- 中学生を対象としたニート・ひきこもり予防教育プログラムの開発
- 人と犬のシェアフードの開発
- 生産者の意向に沿った「こはく姫」のブランド戦略策定とパッケージデザイン等を通じた地域活性化の検討
- 七時雨及び鹿角街道の魅力向上を目指したデザイン研究
- 漆塗り製品への関心度調査と応用事例
- 伝統野菜等のブランド化による6次産業化の展開方向
- 市民協働で行う地域の買い物利便性向上を目的とした対策事業の構築に関する研究
- 「もりおか福祉ブランド」のPR支援企画
- フェノール樹脂系接着剤増量剤(希釈剤)としての未利用ポリフェノールの活用研究
- 八幡平市における既存運動施設の有効活用策の検討

## 平成 26 年度

- 甲子柿の粉末化及び商品開発に向けた調査研究
- 岩手県育成雑穀（あわ、きび）を活用した黄金商品開発プロジェクト
- 大船渡市における観光サインの効果的な整備について
- 人口減少社会における地域コミュニティ存続に向けた将来人口推計の研究
- 田老地区小河川のウナギ復活作戦
- 温泉観光地「花巻」の坂の魅力を活かす研究
- ゆかたの着用による盛岡のイメージアップと中心市街地の活性化について
- 地域に活かそうアートの力 ～大学生が「まちなかギャラリー」をプロデュースするなら～
- 盛農版発酵飼料を活用した岩手大型名古屋のブランド化を目指して
- シマミミズ糞土とミミズの特性解明
- 大槌で働きたい ―地域の若者が抱く魅力的な仕事・働く場の条件を探る―
- 3Dプロファイラーによる景勝地、トレイル等の維持管理方法の検討
- 採卵鶏種卵の長期貯卵環境の検討、並びに未利用若齢期母鶏生産種卵の活用を可能とする貯卵環境の検討（生産した遺伝資源を有効に使用するために）
- 被災地ものづくり企業の新規事業創出におけるデザイン発想プロセスの導入実証
- 胆沢扇状地の散居集落におけるエグネの保全と課題
- 若者目線によるスキー客獲得策の検討
- 岩手のスキー場を PR するためのデジタルコンテンツ企画の検証  
（岩手のスキー場を事例とするスキー・スノーボードをテーマとしたデジタルコンテンツによるムーブメント創造の可能性の検証）
- 八幡平市における婚活事情を考える
- 盛岡におけるLRTの導入可能性について
- 朝の連続テレビ小説『あまちゃん』による地域の活性化の検証と課題
- 「ところ（野老）」プロジェクト 「挑戦」 “夢をかたちに”
- 雫石町街道資源の発掘（橋場街道の資源発掘および観光活用）
- 中学生を対象としたニート・ひきこもり予防教育プログラムの開発